

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	介護計画は利用者様のニーズに添ったものを作成しているが、ご家族の要望・意見の聴き取りが不十分である。	ご家族の意見をより深く聴き取り、介護計画に反映する。	ご家族向けのアセスメントシート(健康状態・食事・望む暮らしなど11項目)を作成した。ご家族の要望・意見を丁寧に聴き取り、介護計画に反映するとともに、日常生活リハビリをも織り込む。	1ヶ月
2	27	各介護担当者を中心に全職員で検討し作成した介護計画であるが、関わるその日の職員が常にケアプランを意識した適切な提供をするには至っていない。	ケアプランの内容を関わる職員全員が周知し、適切にケアにあたる。	ケアプランの内容を毎日の介護記録に刷り込み、日々プランに基づいたサービスを提供するとともに、日々の様子を介護計画の見直しに生かしている。	1ヶ月
3	40	食事の好みを聞き取り生かしているが、特定の人に片寄りがちであった。	自分の意思を発言しにくい方にも希望を伺い、反映する。	10時のお茶・3時のおやつには好みの飲み物を喫茶店風に全員の方に伺い、それぞれ違って好みのものを提供する。また食事も、何が食べたいか伺ってメニューを決める「オリジナルの日」を設定する。	1ヶ月
4	54	居室を居心地の良い、使い勝手の良い、安全な部屋作りを工夫している。さらに個々に合わせた環境作りをしたい。	入居者様の変わる状態に合わせ、環境作りを柔軟に対応する。	介助なく自立歩行ができるようになると、夜間の歩行はまだリスクを伴うため、ポータブルトイレを居室ベッド脇に設置し夜間の安全を図る。歩行が不安定にもかかわらず、ベッドから降りる方には、ベッドを排除しマットレスのみで休んでいただき、自由に移動できるよう環境整備を行った。	1ヶ月
5	8	権利擁護の制度については職員も入れ替わっており、知識を得ていない職員がほとんどである。	権利擁護の制度の理解と活用を全職員が認知したい。	地域包括支援センター等に指導していただき学ぶ機会をつくる。	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。